青葉通信

第22号

発行
社会福祉法人
中日新聞社会事業団
中日青葉学園
電話 052(221)0580

松田正憲 学園長、あおば館長退任

在任10年半、安全、安心な学園に

平成二十九年六月をもって学園長を辞することになりました。施設長の資格要件を満たすため、同十八年の一年間、中央福祉学院の通信教育で「福祉」を学び、同十九年一月、前職の安藤さんの後を引き継ぎ、学園長に就任しました。同十五年十月に児童養護施設「あおば館」児童心理治療施設「わかば館」と複合施設になって三年ほど経過した頃。「ど素人に何ができるか…」。子どもたちの支援は、寺井さん（現わかば館長）をはじめ職員の皆さんに任せ、「子どもも職員も安全で安心して楽しく生活できること」を心がけてきました。学園の運営は、たくさんの方々に支えられ、あおば館の小規模化、安全対策などそれなりの取り組みができたかな、と思います。しかし、まだまだやるべきことは山のようにあり、それは後任の妹尾さんの宿題としましょう。

学園外では施設長会公報委員長を仰せつかり、広報誌「朋」の編集に携わりました。こちらも「楽しく」をモットーに進め、他施設の皆さんとの知己を得ることができました。三年前の「朋5号」での施設長紹介をここで改めて掲載し、今も変わらぬ私の気持ちとします。

副学園長を含め十一年六カ月、児童相談センター、学校、ボランティア、そして何より職員の皆さんをはじめ、多くの関係の方々に大変お世話になりました。ありがとうございました。

朋5号・施設の紹介 施設の顔 ～施設長はこんな人～

中日青葉学園は、児童養護施設「あおば館」、児童心理治療施設「わかば館」と種別の異なる施設を持つ複合施設で、私は学園長であり、あおば館館長が役どころです。

中日新聞で三十八年間、編集、事業、販売の仕事に携わり、定年後の職場として七年前に赴任しました。その時以来、思っていることは、児童福祉の現場は「大変な所」だということです。医療、障害者など「大変な職場」はいろいろあるでしょう。

それにもまして、さまざまな理由で入所してくる子どもたちは「あまりにも大きな問題」を抱え、その子たちのケアをする職員は日々、もがき苦しんでいます。その半面、職員の心を和ませ、やる気にさせているのも同じ子どもです。

子どもとの日々のちょっとしたやり取り、卒業式など節目のさまざまな場面で充実感を味わいます。毎日ジェットコースターに乗っているような感じでしょうか。職員は、「子どもに寄り添いたい」と明確な意思を持って学園に入ってきます。

私は、出発点が違い、今も児童福祉は素人です。「7年目で素人はないでしょう」と冷やかす職員がいます。時にはジェットコースターに一緒に乗ることもありますが、疾走しているのを地上から眺めていたい。「子どもの最善の利益」は当たり前のこととして、現場のことは右腕の寺井部長をはじめ職員に任せ、職員が働きやすい環境を整えるのが素人の役割だと思っているのですが…

中日青葉学園 理念

「和」

人の輪を広げ、豊かな心を育て、
未来に向けて子どもと共に歩み、
地域福祉の向上に貢献します。

方針

1 家庭的なホーム生活を通じ、子どもたちの情緒の安定を図り、安全で安心できる生活を提供します。

2 スポーツ・文化活動を通じ、仲間との連帯感、心身の健康、豊かな心、忍耐力を育みます。

3 児童の権利擁護に努め、子どもたちの言葉に耳を傾け、社会的な責任と自分たちの権利、義務について共に考え、自立を支援します。

4 地域との交流を深め、地域の子育て支援・ボランティア支援の役割を担い、地域に開かれた参加型の施設を目指します。

5 外部の専門機関との連携を深め、子どもたちにとって、より良い支援を行います。

6 「子どもの最善の利益」を念頭に、職員の教育・研修を行い、自己研鑽に努めます。

学園長 兼 あおば館長
妹尾浩和

7月に6代目の青葉学園長、児童養護施設・あおば館長に就きました。中日新聞社で編集局の記者として記事を書く仕事を主にしてきましたが、昨年4月に、副学園長として学園に赴任しました。

社会福祉は素人で、1年間、通信教育で福祉の現状と課題、理念を勉強しましたが、その実践となるとゼロからのスタートです。

学園には、さまざまな理由で両親と一緒に暮らすことができない子どもたちが生活しています。その子どもたちが抱える生きづらさは、私の想像を超えるものでした。

職員は、子どもに寄り添い、安全で安心して暮らすことができ、学校で学習や部活に取り組めるよう支援に努めています。

子どもの貧困が注目されています。新聞社が母体の社会福祉法人の施設として、その実態を知っていただけるよう努力し、ボランティアや大学生の実習生も積極的に受け入れます。地域社会の一員として歩む施設を目指します。皆様がたのご支援をよろしくお願いいたします。

近藤日出夫 副学園長 わかば館長 退職
10歳で入園 学園と共に歩んだ50年余

追憶は未来への道しるべ

私にとって実家のような存在の中日青葉学園を今年三月に退職して四カ月が過ぎました。木に例えるなら凛とした父親のような幹と、枝ぶりのいい温もりのある母親のような存在に、守られてきたように思い返されます。

近年は長らく落ち着いてピアノに向かう余裕もなく過ごしてきましたが、「過去の自分と向き合わなければ」との思いから、中学時代によく弾いたスペイン民謡「追憶」を演奏したりして当時の思いに浸っています。

この歌詞とメロディーは、心地よく青春時代に誘ってくれます。「星影やさしく　またたくみ空　仰ぎてさまよい　木陰を行けば　葉うらのそよぎは　思い出誘いて　すみ行く心に　しのばるる昔　ああなつかし　その日」原題は「free as a bird（鳥のように自由に）」。私の中学時代の心が躍る懐かしい歌の一つです。

このように学園への回顧の思いを紐解き、徒然に五十余年の思い出の一コマを振り返ってみます。

私が暮らした子ども時代（一九六〇年代）の学園は、本館と児童居室棟がスレートの屋根の渡り廊下で繋がっていました。いたずらで思い出されるのは、保育士さんや実習生のお姉さんたちに、ゴムで作ったクモのおもちゃを屋根のパイプに糸で吊るし、歩いてくる目の前に垂らすと、例外なく「きゃあ～」と大声を出して驚く、その様子を見ては楽しんでいました。

外へ自由に出ることが出来なかった時代ですから、自分たちで楽しみを作る必要があったのです。遊びの中に創造性とユーモアのセンスが求められたと思っています。ユーモアのわかる金峯昭夫先生（三代目学園長）に見つかっても、いつも笑いながら「こらっ！あまり度が過ぎることだけはするなよ」とたしなめられましたが、そのことで叱られたことはありませんでした。

一人でお使い

先生にほめられたことといえば、それはS君が中学一年生の時に名古屋市中区にある中日病院に盲腸で入院した時のことです。当時、小学校六年生の私に下校後「職員が夜は二人しかいないので、悪いが洗面器や着替えなどを届けてもらえないか」と言われて病室に届けたことがありました。

学園に帰園できたのは、午後九時頃でした。「ただいま！」と言って職員室に顔を見せると、「よく無事に帰ってきてくれた。本当にありがとう！」と、手をたいて喜んでいただいたことを覚えています。

現在では子どもに夜一人で遠い病院に届け物をしてくれとは頼めません。しかし子どもは信頼されれば能力以上のことをもできる可能性があることを学びました。つまり行ったことがないところへ公共交通機関を使っていくわけですから、切符の購入と間違いなく最寄りの駅で降りて、目的地の病院に向かって歩みを進めながら、途中で道を尋ねなければ到底たどりつくことはできません。語い力と他人とのコミュニケーション力が試されます。

しかも目的を果たした後では想像以上の達成感を感じました。

ハード面は格段に進歩と成長を遂げましたが、子どもたちの心の有り様はどうでしょうか？ここでしか教えられないことを、しっかり子どもたちに伝えられているでしょうか。

自立目指して

人の生い立ちを変えることは難しいですが、子どもたちの真の幸せを実現するためには、その何倍かの課題を乗り越えるための努力が、一般家庭の子ども以上に求められるという事実を真摯（しんし）に受け止めなければなりません。自立はその人なりの自立を目指すことが大切であり、多くの課題を抱える子どもたちの中には、何でも自分でできるようにとは考えていません。

社会的養護として社会の負託にこたえるとは、少しでも現状を改善していく方向性と、子どもたちの社会化を念頭に置いた取り組みを実践していかなければなりません。不遇な環境に育った子どもたちが、自分らしく輝ける場所を見つけられるように、巣立ちに向けて翼を休めながら「心の栄養」を蓄えていってほしいと願います。

残された人生はどれ程か分かりませんが、今の私に出来ることは人材育成の視点から、児童福祉施設の現場で働いてみたいと思える学生を、一人でも多く育てることだと考えています。

最後に子どもたちと懸命に関わっている職員の皆さんが、使命感を持ち仲間と連携をして日々の仕事にやりがいを見いだし、これからも中日青葉学園の矜持と伝統を継承していって欲しいと願っています。

副学園長 兼 わかば館長
寺井陽一

4月に5代目わかば館長に就きました。中日青葉学園に就職して31年目となり、初めて関わった子はもう45歳になっています。昨年度までは、あおば館を中心に両館の指導療育部長として子どもに関わってきました。

わかば館は、この4月から情緒障害児短期治療施設から児童心理治療施設に種別変更しました。心理治療を中心に治療的な関わりを大切にしながら、養育的な視点を取り入れたわかば館ならではの取り組みを考えています。

また、複合施設として、両館の長所を生かし、子どもも職員も楽しく交流を図ることができるようにしていきたいです。今年は「明るく」「楽しく」をモットーに、職員には「一生懸命」を加えて、子どもに寄り添い、一緒に育ちあえるように努力していきます。

青葉祭りで
吠える

フットサル優勝

中日の大島選手（右）と

レストランで子どもたちと

松田さんは凄い人でした。コンプライアンスの遵守から始まり、両館の融合と独立に気を配り、人事交流も積極的に行いました。防犯カメラ等セキュリティーの整備、あおば館の小規模化に取り組み、両館の職員室を合体させ、風通しの良い学園になりました。「大胆かつ繊細に」を実行し、足跡を残しました。

（わかば館長・寺井陽一）

松田さん、近藤さんの思い出写真グラフ

理髪の加藤さんに髪を刈ってもらう近藤さん

学園の卒園式で

60歳から乗り出した愛車roadstar

近藤さんが、サングラスをかけ叱咤激励してソフトボールを指導する姿、生活発表会で熱演する姿や舞台に立つだけで笑いが起こる存在感、子どもを叱るときの熱い言葉、幼児さんを膝に乗せ絵本の読み聞かせる微笑ましい姿など数々の思い出が浮かんできます。近藤さんは、心の師です。

（指導療育部長・高嵜孝一）

かわいいでしょ？
H24年
わかば祭り

旧校舎前で

性的被害児支援のための講演会

五月二十四日に、女子の児童自立支援施設・国立きぬ川学院の相澤孝予学院長をお招きして「性的被害を受けた子どもの理解と支援」をテーマに講演していただきました。

性教育を始める前にしておくべき大切な事を「生活支援の視点から」大変わかりやすくお話していただきました。そして、支援の基礎になる跳び箱三段「安全・安心な予測できる生活」「信頼と安心の関係を築く」「自己コントロール力の獲得」が大事であることを、職員が共通認識として持つことができました。

性の問題について考える会　学園に事務局

六月一日に、愛知県精神医療センターで「性の問題について考える会」が開かれ、児童福祉施設、医療機関、児童相談所の職員が集まり、研修会を行いました。グループセッションもあり、各施設での取り組みなどの意見を交わしました。

数年前に、あいち小児保健医療総合センターの医師、保健師、心理士により発足。同センターを会場に、各施設の性に関する取り組みを紹介し、情報交換を通じて職員が直面する状況や感情などさまざまなことをシェアしてきました。

第五回からは会場を施設に移し、これまで計十一回開催。昨年度から中日青葉学園が事務局を担い、運営に携わっています。

自立支援　中養協大会で発表

六月八～十日に、中部ブロック児童養護施設・乳児院協議会愛知大会が名古屋市でありました。学園からは「自立支援の現状と課題」をテーマに、高校中退者の対応策として通信制などに方向転換したり、就職支援に向けて取り組んだりしている現状を報告。今春の高校卒業生と在学生の二例を事例発表しました。

グループワークでは、夢や目標を持つためには、アルバイトなどを通して地域や社会に目を向けることが必要である、などの意見が出ました。

昭和女子大学の原史子教授からは「ここまでの自立支援・アフターケアをすると、施設内で決めることが必要。親との関係調整も丁寧に」と助言をいただきました。あらためて、チーム支援の重要性などを学びました。

平成28年度　表彰

永年勤続表彰

三十年　寺井陽一両館指導療育部長▽十五年　宮田典幸わかば館児童指導員、河邉みづ子調理員▽十年　伊藤清美調理員、山本秋子わかば館心理士▽五年　林美歩あおば館児童指導員、篠原江里あおば館児童指導員

職員表彰（平成29年2月27日）

特別表彰　**近藤日出夫**＝長年学園に勤務し、多くの貢献をした。

◆

わかば館あさぎホーム（村野知世、天野るな、宮田典幸、加藤千聖、原奈緒子、辻本千絵美）＝極めて対応が難しい児童をチームワークよく支援する。

あおば館もみじホーム（野村花枝、福井由佳里、佐野美咲、梅北洋平、印藤義子）＝特別な対応が必要な複数の子どもたちに寄り添うケアに当る。

あおば館・林美歩、篠原江里＝他施設研修から勤務体制見直しを提案、働きやすい職場作りに貢献。

あおば館・宮地拓朗、長友薫子＝児童福祉施設長会ソフトボール大会であおば館チームを優勝に導く。

あおば館・角谷ひとみ、篠田知沙＝欠員補充のないさくらホームで丁寧なケアに力を合わせる。

わかば館・辻本千絵美＝第三十八回音楽の集いバンド演奏でよくチームをまとめる。

人事異動

【採用】　＝7月1日
学園長兼あおば館長（副学園長）妹尾浩和
＝4月1日
非常勤職員・野村花枝

【異動・昇任】＝4月1日
副学園長兼わかば館長（指導療育部長兼あおば館指導課長）寺井陽一▽指導療育部長（わかば館指導課長）高嵜孝一▽あおば館指導課長（あおば館指導係長）阿尾匡晃▽わかば館指導課長（わかば館指導係長）伊藤洋一▽あおば館事務課長（あおば館事務係長）園原基治▽あおば館指導係長（同館主任指導員）竜栄貴▽わかば館指導係長（わかば館主任保育士）早崎幸代▽同館心理係長（同館主任心理士）岡部匡俊▽同館主任指導員（同館児童指導員）宮田典幸

【退職】　＝6月30日
学園長兼あおば館長松田正憲▽わかば館児童指導員加藤千聖
＝3月30日
副学園長兼わかば館長近藤日出夫▽わかば館児童指導員　原奈緒子▽あおば館児童指導員　野村花枝、篠原江里、福井由佳里

新人ですよろしく

◆あおば館

大澤卓矢▽平成元年牡羊座、富山市▽児童指導員▽子どもたちが、よりよく成長できるような支援に取り組みます。

水野朱里▽平成六年双子座、豊田市▽児童指導員▽青葉のみんなと元気に楽しく、日々成長していきたいと思います。

山地芽依▽平成八年獅子座、みよし市▽保育士▽慣れないことばかりですが、よろしくお願いします。

柳生翔紀▽昭和六十年みずがめ座、岐阜県多治見市▽心理士▽笑顔を大切に過ごしたいと思います。

◆わかば館

浅田将義▽昭和五十三年てんびん座、東海市▽心理士▽卓球やバドミントンで子どもたちとたくさん関わりたいです。

近藤加奈子▽平成七年うお座、さいたま市▽児童指導員▽得意なピアノを通じて多くの子と関わりたいです。

増田有紀▽平成七年牡羊座、岡崎市▽児童指導員▽元気と笑顔が自慢です！毎日楽しく過ごせるように頑張ります。

新井千鶴子▽獅子座、神奈川県伊勢原市▽調理員▽料理、お菓子作りがもともと好きです。頑張ります。

（名前▷生まれ、出身▷資格▷ひと言　※好きな動物イラスト）

巣立ちの会

学園を退園する子どもたちを祝う「巣立ちの会」を三月二十日に多目的ホールで開きました。

二十八年度は、十四人が学園を旅立ち、進学や就職、家庭復帰しました。

子どもたちは、日本フラワーデザイナー協会愛知県支部の皆さんに作っていただいた花が飾られた会場の花道を通って入場。児童相談所や学校の先生、卒園生が見守る中、一人ひとりが、スクリーンに映し出された写真を見ながら、楽しかったことや辛かったことなど学園での思い出を話しました。退園する子どもたちには、社会事業団から記念品が渡されました。

花道を入場する卒園生

スライドに映し出される写真を背景に、思い出を語る卒園生

つつじの会

卒園生や退職職員、元分校教師をお招きして交流を深める「つつじの会」を、四月二十九日に多目的ホールで開催しました。

今回は三部構成で、第一部の式典には八十四人が出席。松田園長、蟹江会長のあいさつに続いて、二人の卒園生徒が「学園で学んだコミュニケーション力はとても役立ちました」と学園での生活を振り返りました。

第二部は、この三月に退職した近藤日出夫副園長を囲む会で「十歳で入園し、学園の職員を退職するまで約五十年お世話になり、私の実家のようなものです」とあいさつされました。スクリーンには、なつかしい学園の写真が次々に映し出され、参加者は思い出に浸っていました。

第三部では、平成三十二年に学園が創立六十年を迎えることから、タイムカプセルに手紙を入れて埋めました。

蟹江会長の音頭で乾杯するOB職員ら

タイムカプセル埋設

年度末旅行

二月から三月にかけて、各ホームで、年度末旅行を楽しみました。

一番人気は、ナガシマスパーランドで、「さくら」（幼児）、「わかば館」、「ひのき」「けやき」（ともに男児）が出かけ、絶叫系マシンに挑戦したり、シューティングゲームなどを楽しんだりしました。

「もみじ」（女児）は、スケートをした後、スイーツバイキングを味わいました。「しらかば」（女児）は大阪に出かけ、Kポップや焼き肉など韓国の雰囲気に浸りました。

ナガシマスパーランドで

1月～6月の行事

1月
- 1日　初詣

2月
- 3日　寿司正さん　恵方巻寄贈
- 12日　施設長会親善マラソン大会
- 13～19日　各ホーム年度末外出

3月
- 1日　高校卒業式
- 3日　日進中卒業式
- 11・19日　年度末外出
- 16日　北小卒業式
- 17日　UFJ自立支援セミナー
- 18日　テーブルマナー教室
- 日進ベタニヤ幼稚園卒園式
- 19日　NFDフラワー教室
- 20日　巣立ちの会、卒園パーティー、離任式
- 24日　小中学校修了式
- 26日　洞泉寺楽市楽座
- 27日　お楽しみデー（いちご動物園、ラーメン訪問、パイプロイド教室）
- 30日　レゴランド招待

4月
- 6日　北小、高校入学式
- 7日　日進中入学式、日進ベタニヤ幼稚園入園式
- 20日　高校生交流会議
- 28日　分校スポーツフェスティバル
- 29日　つつじの会、タイムカプセル埋設

5月
- 3～6日　GW外出
- 17日　職員研修（他施設見学）
- 30日　中日新聞社会事業団理事会

6月
- 3日　北小運動会
- 7～9日　中養協大会（名古屋市）
- 17日　ボランティア活動日、青葉スポーツ大会
- 20日　中日新聞社会事業団理事会

日産自動車から電気自動車寄贈

愛知日産自動車（名古屋市）さまから、電気自動車二台をいただきました。水色の「e-NV200」と「リーフ」で、八時間充電すると、二百キロ前後走ることができます。

六月十二日に行われた寄贈式には、愛知日産自動車社長の打越晋さまと日産自動車副社長の中村公泰さまが出席され、学園の松田正憲学園長と中日新聞社会事業団の坂井克彦理事長に鍵を手渡されました。学園では、子どもたちの送迎などに使わせていただきます。

苦情意見

入所児童、職員、ルールそれぞれに対する苦情の投書がありました。

入所児童間での苦情については職員が間に入り聞き取りを行い必要な対応をしました。職員への苦情については、子どもの気持ちも受け止めつつ職員がなぜそのような対応をしたか説明するよう努めると共に、対応に不適切な点はなかったか話し合っています。ルールについても職員間で現状に見合ったルールなのかを話し合い、変更の可能なルールについては子ども達の話も聞きながら変更を検討しています

イベント開催、招待

さまざまな方々や団体に、イベントを開催していただいたり、招待を受けたりしました。ありがとうございます。

（敬称略）

寿司正さま恵方巻き寄贈（２月３日）

レゴランド招待（３月30日）

パイプロイド教室（３月27日）

分校の油絵

今年三月に、青葉学園を卒園した二宮亜美さんが、日進中学校青葉分校を卒業するにあたり、分校を油絵で描きました。美術部の部活動で取り組んだ作品で、グレーの建物と、青い空、緑の芝生が印象的です。分校に飾ってあります。

門扉設置

本館の玄関前の道路二カ所に、門扉を設けました。上り坂の斜面の塀も、木製から金属製に変更しました。国からの補助金を使い、安全、防犯対策の一環として整備しました。

多くの方から、寄付、招待をいただきました。平成二十九年一月から六月までに支援していただいた方のお名前を紹介させていただきます。匿名での善意もいただきました。ありがとうございます。

（敬称略、順不同）

岩瀬清、垣見興子、桜井良雄、山田元恵、中日新聞守山南部専売店、山田正美、中日新聞岡田新聞店、小酒井学、楢崎正剛、文屋、ＪＡ三重南紀、慈眼寺、都筑、コストコホールセールジャパン中部空港倉庫店、田中尚己、ＬＡ ＢＯＭＢＡ、中部善意銀行、松本哲男、東ソー・ニッケミ、チュチュアンナ、東海アイスクリーム協会、タイガーマスク基金、田中尚巳、黄元圭、椿謡会つばた歌謡教室、真能秀久、片田知行、井上希見子、白龍神社、安納スウィーツファーム農業生産法人、愛知県信連、日本ゼネラルフード、日本公衆電話会東海統括、地方紙正月連合企画、ＳＬＯＴ ＰＯＷＥＲＳ ＷＩＮ、ダスカジャパンクァテモック、竹本潤平、カーブスフードドライブ、日進市造園組合、魚臣、伊達直人、聖霊高校、絶対達成社長の会、愛知県菓子技術専門学校、クレヨンハウスmorimotoプロジェクト、らうめん考房ありがた屋

大学進学支援

社会事業団の大学等進学支援制度に基づき、（平成二十九年度からの新学期に向けて）二十八年度は、卒園生七人に支給しました。内訳は、大学三年生二人、大学二年生一人、大学一年生一人、専門学校二年二人。経済状況により、一人十五万円から五十万円を支給しました。

二十九年一月から六月までにいただいた寄付のうち、次の皆様の善意を進学支援金とさせていただきました。（敬称略）

経政会、青山工機、今枝久美子

平成28年度 中日青葉学園決算

あおば館　（単位：円）

収入の部		支出の部	
1. 措置費	231,032,539	1. 人件費	156,558,517
2. 民間運営費補助金	9,217,960	2. 事務費	21,295,332
3. 寄附金	4,376,982	3. 事業費	46,895,071
4. 雑収入	5,204,407	4. 固定資産取得(建物)	62,461,260
5. 利息配当	508	5. 固定資産取得(備品)	473,580
6. 繰入金	38,000,000	6. 固定資産取得(構築物)	1,922,400
7. 子育て支援事業	82,500	7. 整備費積立金	12,000,000
8. 整備積立金取崩	10,000,000	8. 拠点区分間繰入金	12,810,000
9. 修繕積立金取崩	25,000,000	9. リース債務返済額	842,928
10.施設設備等補助金	2,893,000	10.次期繰越金	10,548,808
合計	325,807,896	合計	325,807,896

わかば館　（単位：円）

収入の部		支出の部	
1. 措置費	183,975,159	1. 人件費	139,809,166
2. 補助金	7,833,000	2. 事務費	19,249,755
3. 寄附金	1,818,000	3. 事業費	22,305,621
4. 雑収入	3,245,918	4. 固定資産取得(建物)	35,159,940
5. 利息配当	594	5. 固定資産取得(構築物)	1,792,800
6. 繰入金	14,810,000	6. 整備費積立金	15,000,000
7. 整備積立金取崩	18,000,000	7. リース債務返済額	651,360
8. 修繕積立金取崩	4,000,000	8. 次期繰越金	1,058,029
9. 施設設備等補助金	1,344,000		
合計	235,026,671	合計	235,026,671

編集後記

長年、青葉学園に貢献していただいた、近藤副学園長が三月末に、松田学園長が六月末に退任され、今回はその「ご苦労様でした特別号」です。寄稿いただいた文章からは、お二人の学園への思いが伝わってきます。その思いを今後につなげるよう努力したいと思います。

愛知日産自動車さまから、電気自動車二台を寄贈していただきました。時代の最先端の車に感激。環境に優しく、静かな走りに驚きです。重ねて、感謝いたします。

（S・H）

社会福祉法人中日新聞社会事業団　〒460-8511　名古屋市中区三の丸1－6－1　中日新聞社1階
電話 052（221）0580　ファクス 052（221）0839

中日青葉学園　〒470-0131　愛知県日進市岩崎町竹ノ山149－164

児童養護施設「あおば館」　電話 0561（72）0134　ファクス 0561（74）2315

児童心理治療施設「わかば館」　電話 0561（74）7752　ファクス 0561（72）7557